でまぼろん通信

VOL.13

(平成 16年7月15日発行) (財)福島県文化振興事業団 福島県文化財センター白河館 〒961-0835

白河市白坂字一里段86 TEL 0248-21-0700 (代) FAX 0248-21-1075 URL http://www.mahoron.fks.ed.jp



炭づくりイベント

本県の浜通り地方の製鉄遺跡からは、周囲の壁が真っ赤に焼けた四角い形をした土坑がたくさん みつかっています。底面には木炭が残っているものもあるところから、現在、炭を焼いた土坑では ないかと推測されています。

実際にこのような土坑でどれ位の炭が焼けるのかを確かめるべく、まほろんでは、6月5・6日の両日、この大きさの土坑を作って、炭をつくるイベントを行いました。当日は鉄づくりでもお世話になった福島市の刀匠藤安将平氏のご指導をいただき、34名のみなさんが参加されました。

まず、あらかじめ当館の敷地の一角に 130×90 cm、深さ55cm と65cm の2基の土坑を作っておき、5日の午前10時30分から材料の薪を燃やし始め、夕方8時過ぎには、上面まで完全にオキがたまりました。そこで、ジョウロで水をかけ、カヤをのせ

て上に水を含んだ麻袋をかけ、その上に土をかぶせ密閉しました。

翌日、10時過ぎに上の土をどけて、恐る恐る中を開けてみると、無事黒々とした炭が出来上がっていました。 2 つの土坑を合わせた炭の量は土嚢袋31袋分に上り、1基で約50kgの炭が出来上がりました。参加者のみなさんには一部をビニール袋に入れて持ち帰ってもらいました。

今回のイベントでは、炭窯を使わなくても、簡単な土坑でかなりの量の炭を焼けることが大変良くわかりました。



体験学習

実技講座「耳飾りづくり」

まほろんで粘土を使う講座としては、すでにおなじみになりました「土器づくり」があります。今年はこの講座に加え、新しく「耳飾りづくり」を行ないました。今回作った耳飾りは、縄文時代に使われていた、粘土でできた丸い筒のような形をしたものです。耳たぶに穴を開けて、そこにはめ込んで使っていたものと考えられています。

講座は2回に分けて行われ、5月22日(土)に粘土で耳飾りの形を作り、6月19日(土)には野焼きをしました。5月22日に行われた記念すべき初めての講座は、ため息と悲鳴から始まりました。

作り方を簡単に解説すると、模様を付ける粘土の円盤に、耳たぶに開けた穴にひっかける側面を貼り付け、少し乾燥させてから模様を刻んだり、飾りを加えて削ったりして作ります。と、言うだけならば簡単なのですが、これを実際に作るとなるとなかなか難しいものです。「本物を真似することで、より多くの真実がわかる」というポリシーのもと、本物のようにできるだけ薄く繊細に作ろうと、参加者のみなさんは四苦八苦していました。時々、そこらで「くにや」っとなって「はあー」とため息がおこり、部品が「ぽろっ」と落ちて「あー!」という悲鳴もおきていました。

しかし、1点目より2点目、数を重ねるごとに、参加



<耳飾りをつくる>

ボランティアイベント

「まほろん3周年だよ!ボランティア2004」

今年の夏も、大変ご好評いただいたボランティアイベントを開催します!

日 時 平成16年7月25日(日)9:30~15:00

場 所 まほろん体験広場、特別展示室

その他 参加費無料、事前申込みは必要ありません。

主 催 まほろんボランティア

内 容 草履とばし、槍投げ、シャボン玉づくり、竹 とんぼづくり、紙芝居、表郷和太鼓愛好会の みなさんの演奏、昔のおもちゃで遊ぼうまほ レンジャーショーなどを予定しています。 者のみなさんの技術もみるみる向上し、「ここはこうして作ってるに違いない。」などと、優れた考察も行なわれるに至りました。当日だけでなく、粘土を家に持ち帰って作ろうとする熱心な方もあり、何と50点近くが野焼きを迎えることとなりました。



<焼き上がった耳飾り>

6月19日の野焼きの日は、前夜の雨が嘘のように好 天気となりました。野焼きでは火を焚く地面をよく乾燥 させることや、急激な温度変化を避けて、じわじわ温度 を上げて焼いていくことが重要といわれています。点火 は9時30分ですが、これは予備焼きといわれるもので、 まだ作った耳飾りは火の周りで温めるだけです。1時間 以上たった10時48分、いよいよ耳飾りがカゴごと火の 中に入れられました。緊張の瞬間です。途中、薪のはじ ける音がするたびにドキドキです。

当日は土器の野焼きも行われましたが、耳飾りは小さいということもあって焼けるのが早く、11時10分にはほぼ焼き上がりとなりました。少し、すすけて黒くなったものを再度火に入れてやり、11時46分には全ての耳飾りが焼き上がりました。参加者のみなさんの情熱に応えてか、壊れたものは1点もなく、無事に完成を迎えることができました。

耳飾りだけでなく、昔の技術には実際にそれを作ってみて、体験してみて、初めてわかることが多くあります。まほろんでは今後も様々な実技講座を準備して、みなさんとともに多くの発見をしていきたいと考えています。多くの方々のご参加をお待ちしています。



<昨年度のシャボン玉づくりのようす>

まほろん移動展

新編陸奥国風土記 —巻之三 安積郡一

場 所 郡山市民文化センター1階展示室

期 間 7月24日(土)~8月8日(日)

主 催 福島県教育委員会·郡山市教育委員会 財団法人福島県文化振興事業団

共 催 財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 前回の「まほろん春のてんじ(収蔵資料展)」を移動 展として、今回は郡山市にて開催します。

1 アサカのはじまり

郡山市弥明遺跡のナイフ形石器など旧石器時代の石器

13点を展示します。

2 川辺の縄文集落

大滝根川流域の三春町柴原A遺跡や越田和遺跡、谷田川流域の郡山市荒小路遺跡の縄文土器や土偶などの遺物や敷石住居跡写真パネル・模型などを展示します。

3 弥生の祖霊像

郡山市徳定A遺跡の人面付き壺形 土器の破片を展示します。



4 古墳時代のムラとマツリ

郡山市正直A遺跡のマツリの跡やその道具を作った工 房跡からみつかった土器や玉類・石製模造品などを展示 します。

5 中近世のあぶくま

郡山市木村館跡、小野町猪久保城跡などの中世城館跡の資料の他、三春町教育委員会の協力で西方館跡の遺物も展示する予定です。

また、同じ会期・会場にて、「第10回市内遺跡発掘調査成果展」と「企画展:「郡山発祥の地ー清水台遺跡ー」」 (ともに郡山市教育委員会主催、財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団共催)が開催されます。

シリーズ復元展示

まほろんでは、平成14年度から「古代の鉄をメインテーマとし、古代製鉄遺跡から出土した鋳型からの鉄製品復元や、古代製鉄法による鉄づくりの復元操業などを行ってきました。この「まほろん通信」でも、8~10号にわたって獣脚付き容器の復元や、「鉄づくり」イベントについて報告してまいりました。今回と次回の2回は、鋳型から復元した鉄製梵鐘についてお話しを致します。

今から1,200年ほど前の平安時代、福島県浜通り地方北部の相双地域には、鉄の鋳物工場があり、新地町向田A遺跡や相馬市山田A遺跡では、獣脚付き容器や梵鐘、風鐸などの鉄製品が製作されていました。このうち、梵鐘は径27cm、高さ38cmほどの小型のもので(喚鍾、あるいは半鐘と呼ばれます。)、鐘身には袈裟襷による大小長短の区画が施され、鐘身に比べてやや大きめな龍頭の鋳型が発見されています。

一般的に梵鐘は、青銅製の方が、音が良く(余韻が残る)、壊れにくい(柔らかいため)と言われています。これに対し、鉄製の方は、音が悪く、壊れやすいことから、梵鐘を鉄で製作されることは非常に少ないと言われています。相馬地方の鋳物工人たちは、なぜ製作条件が悪いと言われる鉄製の梵鐘を製作したのでしょうか?今回の復元研究は、鉄製梵鐘の製作が本当に可能なのかどうかと、鉄製梵鐘の音色に重点を置いて取りかかりました。

具体的な製作(鋳込み作業)は、3回行いました。1回目は、砂鉄原料の銑鉄(鋳物用の鉄のこと)のみを原料に使用し、鋳型に鋳込みました。

鋳込んだ結果、表面にはクレーター状の穴が無数にでき、穴が開いた箇所やひびも入ってしまいました(写真参照)。鋳物師業界で言ういわゆる"お釈迦"の製品です。鋳込みを担当した鋳物師さんの話しでは、「湯(鋳込む鉄のことを"湯"と呼びます)から火花が上がり、鋳込み口が全く見えず、カンで鋳込みを行った」とのことです。

これは、カーボン・ボイリングと呼ばれる現象で、原料である銑鉄中の炭素と酸素が反応し、鋳込んだ鉄の中から炭酸ガスが発生したものと思われます。



研修課より

7月21(水)~23日(金)に体験学習支援研修2が行われます。内容は身近な材料を使ったまいぎり作りとアンギン台作りで、下の写真が昨年のようすです。



総務管理課より

まほろんの謎(なぞ)②

ーまほろんキャラクター編ー

今回は、まほろんの可愛らしいキャラクターの生い立ちにせまってみたいと思います。それではキャラクターの生みの親、石本学芸員に聞いてみましょう。

キャラクターを描くきっかけと発想源は?

「オリジナルはまほろんを建てる前に発掘調査をした『一里段A遺跡』の現地説明会資料にカットとして載せたのが最初です。その後1993年『第8回遺跡発掘成果展』のポスター等で色々な格好をさせるようになりました。発想源は、縄文時代の土偶がモチーフですが、まほろんに来る子供達をモデルにすることもあります。」

何を使用して作成?制作時間は?

「手書きで下絵を描き、スキャナーでパソコンに取り込み、『イラストレーター』というパソコンソフトで仕上げます。制作時間は、およそ5~6時間です。」

まほろんからのお知らせ

夏休み特別体験メニューについて

今年も下記の日程で、夏休み特別体験メニューを行いますので、是非、ご参加ください。

7月31日(土)~8月15日(日) 弓矢・槍投げ(13:00~15:00)

8月17日 (火) ~8月29日 (日) 石斧で木を切ってみる (同上)



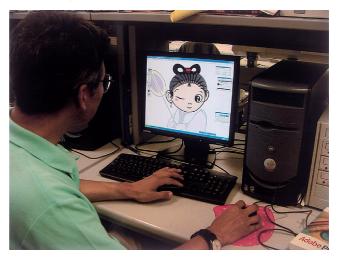
8月4(水)~6日(金)には、教職員発掘調査体験研修が行われます。今年は船引町教育委員会の協力を得て同町大平遺跡での研修です。最終日にはバスで船引町の文化財見学もあります。両研修とも申し込みが必要です。ふるって御参加ください。



では最後に一言お願いします。

「キャラクターのみずきちゃんとひこ君には両親がいないので、いずれは《まほろんファミリー》にしたいと思っています。」

今後、大人のキャラクターも登場しそうですね。 楽しみです!



ご利用案内

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館 し,その翌日が休館)、国民の祝日の翌日

(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が 必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は, 事前にご予約ください。

期日	講演会・実技講座・イベント	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費等
7月25日 (日)	ボランティアイベント	槍投げ・昔のおもちゃで遊ぼう他	なし	なし	どなたでも	無料
8月22日 (日)	土器の野焼き	野焼き場で土器を焼きます	なし	なし		無料
8月1日(日)	土器づくり その2	粘土で土器をつくります	先着順	20名	小学生以上 (4年生以下は保 護者同伴)	100円
9月4日 (土)	体験発掘ツアー	遺跡で実際に発掘の体験をします。	先着順	20名		無料
9月19日 (日)	土器づくり その3	粘土で土器をつくります	先着順	20名		100円